

外来診療担当表

平成26年7月3日現在

診療科	曜日	月	火	水	木	金	備考
総合内科	初診	北浦 剛	山本 哲夫	酒井 浩光	富田 桂公	森 正剛	
消化器内科		香田 正晴	藤井 政至	山本 哲夫	香田 正晴	山本 哲夫	
		上田 直樹		上田 直樹			
呼吸器内科		富田 桂公	富田 桂公	山下ひとみ	北浦 剛	北浦 剛	
	専門外来		交替医(肺がん)		酒井 浩光	山下ひとみ	
血液・腫瘍内科		但馬 史人	但馬 史人	但馬 史人	但馬 史人	但馬 史人	
循環器内科		森 正剛	福木 昌治	福木 昌治	森 正剛	福木 昌治	
	専門外来	福木 昌治					ペースメーカー【診療時間】13時～
糖尿病・代謝内科		木村 真理	木村 真理	木村 真理	木村 真理	交替医	第3週のみ
腎臓内科				福永 昇平			
神経内科						田中健一郎	
緩和ケア内科	専門外来	松永 佳子			松永 佳子		【診療時間】14時～16時/予約制
小児科	午前	林原 博	佐々木佳裕	坪内 祥子	林原 博	佐々木佳裕	
	午後	佐々木佳裕	坪内 祥子		坪内 祥子	坪内 祥子	【診療時間】15時～17時
	専門外来		佐々木佳裕 【アレルギー】	交替医 【乳児健診】	【特殊検査】	林原 博 【アレルギー】 【小児腎・膠原病】	【アレルギー】毎週火・金曜日 【診療時間】14時～17時 【乳児健診】毎週水曜日 【診療時間】13時～14時 【予防接種】毎週水曜日 【診療時間】14時～16時30分 【小児腎・膠原病】毎週金曜日 【診療時間】14時～17時
消化器・一般外科		奈賀 卓司	杉谷 篤	久光 和則	杉谷 篤	山本 修	
	専門外来	杉谷 篤		杉谷 篤		杉谷 篤	腎移植・脾移植
	専門外来			ストーマ			第1,3週のみ/予約制 【診療時間】13時～16時
胸部・血管外科		鈴木 喜雅	鈴木 喜雅	鈴木 喜雅	(鈴木 喜雅)	鈴木 喜雅	
		若原 誠		若原 誠		若原 誠	若原 誠
専門外来						リンパ浮腫 フットケア	【リンパ浮腫外来】 【フットケア外来】毎週金曜日PM予約制
整形外科		南崎 剛	大槻 亮二	土海 敏幸	南崎 剛	吉川 尚秀	
		土海 敏幸	吉川 尚秀		大槻 亮二		
	専門外来	南崎 剛			南崎 剛		骨軟部腫瘍
	専門外来				大槻 亮二		関節外科外来
専門外来		吉川 尚秀					リウマチ
泌尿器科		高橋 千寛	(休診)	小林 直人	高橋 千寛	小林 直人	
放射線科		鳥取大学医師	田原 誉敏	杉原 修司	杉原 修司	鳥取大学医師	
心臓血管外科						交替医	第2週のみ
婦人科		交替医				交替医	7～12月は月・金曜日診療
眼科			大谷 史江				
耳鼻咽喉科		山本 祐子		山本 祐子		山本 祐子	
歯科		中本 紀道		土井理恵子		奈良井 節	

時間 (初診受付) 8時30分～11時 (再診受付) 8時30分～11時 健康診断受付 予約制

国立病院機構 米子医療センター
〒683-0006 鳥取県米子市車尾4丁目17番1号 TEL.0859-33-7111(代) FAX.0859-34-1580(代)

診療情報提供書・FAX紹介状の送信は下記番号まで
FAX.0859-37-3931
(地域医療連携室直通FAX)

米子医療センターマガジン #04 アーカス July 2014
平成26年1月10日/初刊発行 平成26年7月14日/発行
発行 米子医療センター 〒683-0006 鳥取県米子市車尾4丁目17番1号 デザイン・印刷/合同印刷株式会社

無料0円

Yonago Medical Center Magazine ARCUS

あーかす

ご自由にお持ち下さい
¥0

米子医療センターマガジン #04
July 2014

心と言葉を虹の架け橋にのせ“伝える”“つながる”情報誌

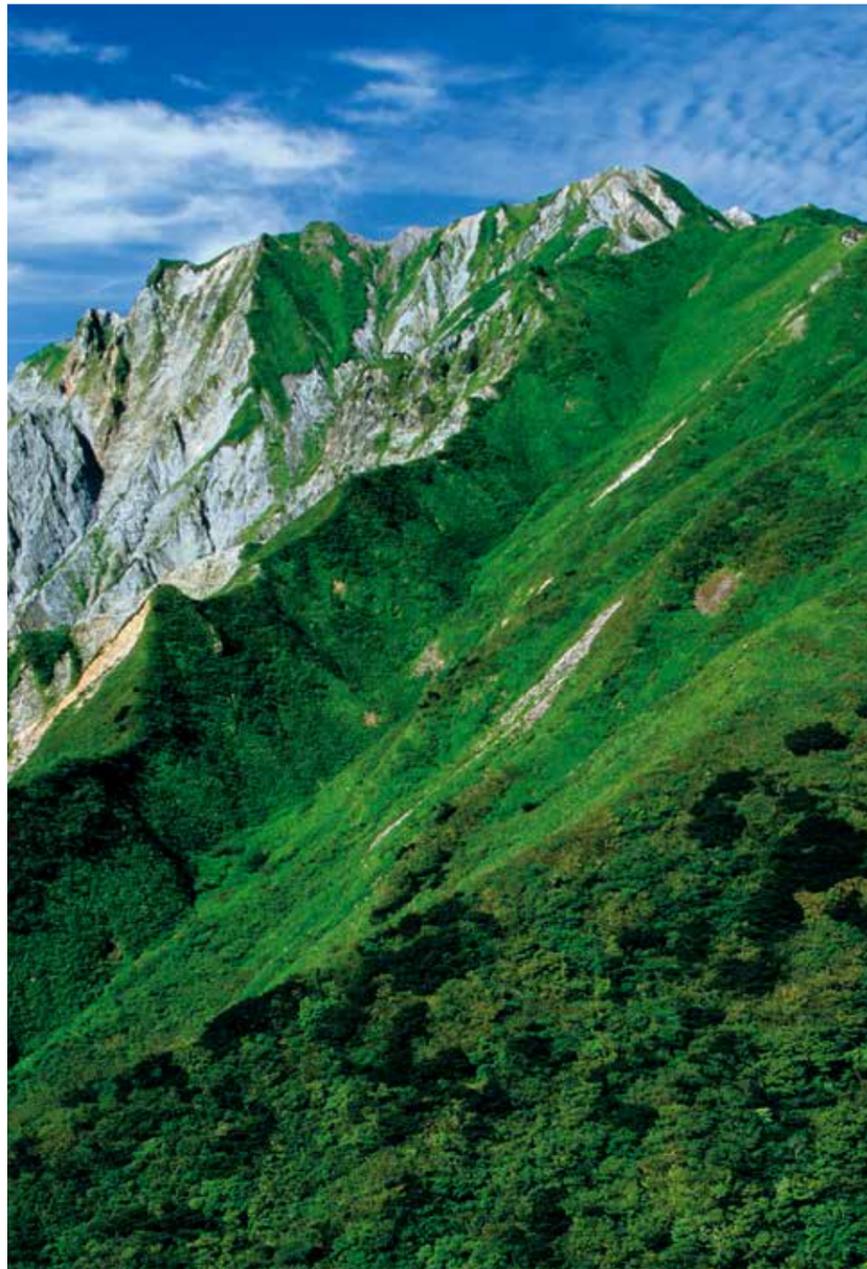
新病院完成のご挨拶
新病院完成式典・内覧会を終えて
新病院のご案内・専用駐車場MAP

教えて! ドクター カテ室とは
特集/米子医療センター活動報告
Topics File.003 なめらか食ってなあに?
New Face

地域医療連携室からのお知らせ
Enjoy! 学生 LIFE

contents

- 03 ご挨拶
- 04 新病院完成式典・内覧会を終えて
- 06 新病院のご案内 専用駐車場 MAP
- 07 教えて!ドクター カテ室とは
- 08 特集 米子医療センター活動報告
- 10 Topics File.003 なめらか食ってなあに?
- 12 NewFace
- 14 地域医療連携室からのお知らせ
- 15 Enjoy! 学生 LIFE



7月 今月の一枚

政木 昭夫 (米子市)

大神山神社から、宝珠尾根を経てユートピアに登り、ここから東へ30分ほど下った所に振子山があります。ここからの東壁の眺望は、見る人を圧倒する迫力があります。この写真は、振子山頂上から樅尾根、天狗峰、東壁、ユートピアを撮ったものです。



新病院完成のご挨拶

国立病院機構 米子医療センター
院長 濱副 隆一

現在の建物は昭和44年に建築されたもので、著しい老朽化と狭隘さのために、医療の高度化への対応や療養環境の改善あるいは診療業務の効率化を図るのが難しく、病院の建て替え整備が急がれる状況にありました。このたび長年の念願が叶い、病棟と外来棟の全面建て替えにより8階建ての新しい病院が完成致しました。

当院は長い間、国立米子病院として地域に親しまれてきましたが、平成16年に独立行政法人化されたのに伴い、米子医療センターに名称を変更し、患者さま本位の医療改革のもと、質の高い医療の提供を心掛けて参りました。その結果、「地域医療支援病院」として地域の一般診療を支えると同時に、西部地区の「がん診療連携拠点病院」として、また、鳥取県唯一の「献腎移植施設」および「非血縁者間骨髄移植施設」として高度先進的な専門医療も担うようになりました。

このたびの病院の更新築整備は45年ぶりの大事業であります。地域の大きな公共財産となるものでもあります。鳥取県行政をはじめ鳥取大学医学部、西部医師会および住民の皆様方にご意見を伺い、新病院の基本構想として「県で不足している医療の充実」と「県西部に欠けている医療の整備」の2つの柱を掲げました。県で充足させるべき医療としては、移植医療に重点を置き、骨髄移植を中心とした「幹細胞移植センター」と臓器移植機能を持つ「腎センター」を設置することにしました。また、県西部に欠けている医療としては、県西部に緩和ケア病床が整備されていない状態が続いており、がん診療の拠点である当院に20床の「緩和ケア病棟」を整備することに致しました。さらに、がんの化学療法が高度に専門化し、症例も増

えていることから、「化学療法センター」をがん治療病棟に併設させ、がん医療の体制強化を図ることにしました。病院機能の面では、リニアックの新型装置、RI診断装置、64列CTやMRI装置などの大型医療機器は全て更新し、内視鏡検査室も2室を増やし消化器内視鏡検査の増加に対応できるようにしました。さらに、医療情報システムとして新たに電子カルテを導入する予定です。

新病院という大きな宝を最大限に活用して、より一層の診療機能の向上とサービスの充実に努め、「強くて、暖かくて、優しい病院」を目指して参りますので、より一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



患者さまと職員が向き合った姿で、患者さま中心の医療提供とYONAGO(米子)の「Y」、MEDICAL(医療)の「M」、CENTER(センター)の「C」の文字を、まごころ、信頼、安心、良質の医療をイメージする「ハート」に組み合わせ「米子医療センター」の明るく元気な姿を表しています。

あーかす

あーかす(Arcus)とはラテン語で「虹」を意味し、英語のArc(弓、橋)+Us(私たち)で「私たちが地域の架け橋になる」という意志を込めてタイトルとしました。私たちの持ついろいろな表情を、地域の方々や医療関係者に広く知って頂き、絆を更に深める情報を掲載してまいります。

新病院完成式典・内覧会を終えて

管理課長 平 和宏

平成26年6月22日（日）に「米子医療センター新病院完成式典・内覧会」を挙行了いたしました。

完成式典には、県内外より約70名の来賓をお迎えし、当院の幹部職員をはじめ、会場となった新病院2階ホールには約130名が集まりました。

式典は、院長の式辞に始まり、国立病院機構本部からの挨拶、設計・施工者への感謝状贈呈、施工者代表の挨拶と続き、来賓を代表して、鳥取県知事代理（健康医療局長）藤井秀樹様、米子市長 野坂康夫様、鳥取大学学長 豊島良太様、鳥取県医師会長 魚谷純様より、ご丁寧なご祝辞をいただきました。クライマックスのテープカットでは、院長、機構本部2名と来賓6名により華やかに執り行われました。さらに、そのタイミングに合わせて新病院各所に描かれているホスピタルアートの一部をご披露させていただきました。



壁画ホスピタルアートの披露



式辞を述べる演副院長



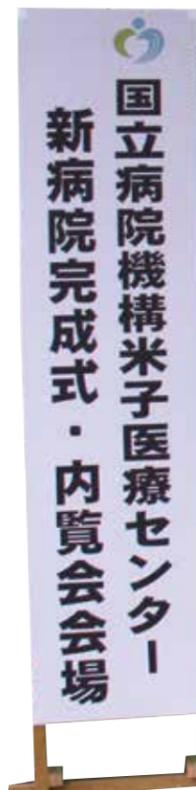
祝辞を述べる野坂米子市長

完成式典は厳粛な雰囲気の中終了となり、その後の来賓を対象とした内覧会では、職員案内のもと緩和ケア病棟、化学療法センター、幹細胞移植センター、腎センターなどをご覧いただきました。

午後からは、OB・一般者への内覧会を行い、約400名の方々の来場をいただきました。当初の予想を上回る来場者の数に、新病院への注目の高さを実感するとともに、その期待に答えていかなければならない我々の使命を感じました。

我々は米子医療センターの基本理念である「地域の命を支える」ことを第一の使命として、強く、暖かく、優しい病院を目指していきたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

この度の完成式典・内覧会にあたり、大変お忙しい中、ご臨席いただきました来賓の方々、ご支援をいただきました方々、ご来場いただきました市民の方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



受付の様子



お祝いの花々



腎センターを内覧される様子

新病院のご案内



展望ラウンジ (8F)

手術室 (5F)

化学療法センター (4F)

腎センター (2F)

売店・食堂 (1F)

8F	緩和ケア病棟
7F	外科・消化器内科病棟
6F	整形外科・内科病棟
手術部門	5F 外科系急性期病棟 HCU
がん治療 化学療法センター	4F 幹細胞移植センター
管理部門	3F 内科・小児科病棟
腎センター リハビリ部門 検査部門 採血・点滴・超音波検査 脳波筋電図検査・心電図検査 呼吸機能検査 がん相談支援センター 地域医療連携室	2F 内科系診療科 外科系診療科 歯科・口腔外科
総合案内 薬剤部門 放射線部門 MRI・CT・リニアック・RI・透視 結石破碎・一般造影・血管造影 内視鏡部門 救急部門 売店・食堂・ATM	1F 小児科 放射線科

8F	緩和ケア病棟
7F	外科・消化器内科病棟
6F	整形外科・内科病棟
手術部門	5F 外科系急性期病棟 HCU
がん治療 化学療法センター	4F 幹細胞移植センター
管理部門	3F 内科・小児科病棟
腎センター リハビリ部門 検査部門 採血・点滴・超音波検査 脳波筋電図検査・心電図検査 呼吸機能検査 がん相談支援センター 地域医療連携室	2F 内科系診療科 外科系診療科 歯科・口腔外科
総合案内 薬剤部門 放射線部門 MRI・CT・リニアック・RI・透視 結石破碎・一般造影・血管造影 内視鏡部門 救急部門 売店・食堂・ATM	1F 小児科 放射線科



特別個室 A (6・7F)

HCU (5F)

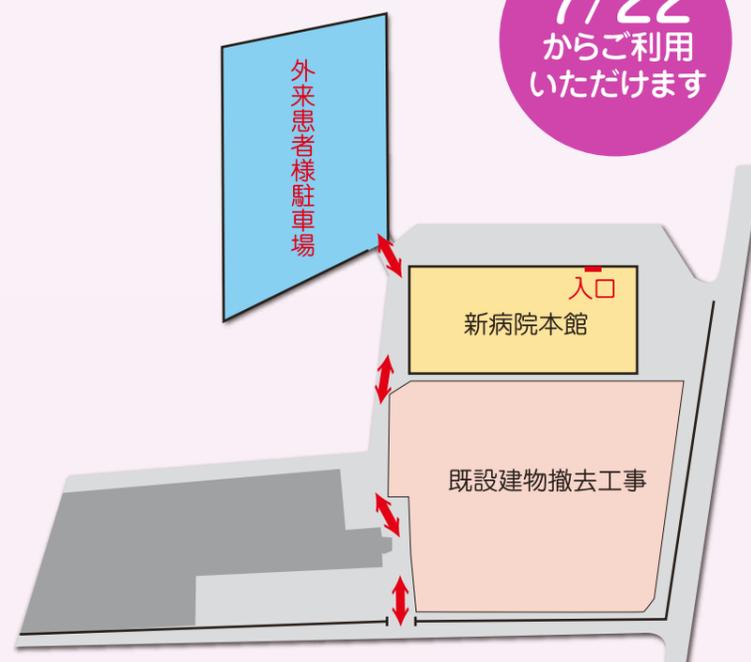
幹細胞移植センター 無菌室 (4F)

外来ホール (2F)

エントランス (1F)

売店・食堂 (1F)

専用駐車場ののご案内



7/22
からご利用
いただけます

お知らせ

7/22
より
新病院での
診療開始

教えて! ドクター

カテ室とは

循環器科医長 福木 昌治



血管造影室あるいは血管撮影室と言われている部屋を、循環器内科医はカテ室と呼ぶことが多いようです。心臓カテーテル検査をする部屋という意味でカテ室と呼んでいます。

心臓カテーテル検査というと、ほぼ冠動脈造影のことを指しますが、その他にもいろいろな検査が行われ、またカテーテル治療も行われます。

冠動脈造影は、虚血性心疾患の確定診断的な意味があります。狭心症、心筋梗塞の診断に用いるほか、心筋症の鑑別診断にも必要です。冠動脈造影には一定以上の精細度と多方向撮影が必要で、場合によっては2方向同時撮影が便利な場合もあります (bi-plain 撮影)。心臓は常に動いている臓器なので、いわゆるサブトラクション (subtraction) は効きません。これらが、一般の血管撮影と異なる点です。30年くらい前までは、冠動脈造影は検査のみで、冠動脈の血行再建術が必要な場合には冠動脈バイパス術しかなかったのですが、その後はバルン拡張術、ステント留置術と、冠動脈治療 (カテーテルインターベンション ; PCI) が行われるようになってきました。

冠動脈造影はいわゆる左心カテーテルといわれる検査に含まれ、動脈系の検査です。主に橈骨動脈 (手首の

動脈)、肘動脈 (肘の動脈) あるいは大腿動脈を穿刺して行いますが、左心カテーテル検査として同時に行われる検査として、左室造影、大動脈造影などがあります。左室造影では、左心室の収縮機能や僧帽弁逆流の評価、大動脈造影では、大動脈弁逆流の評価、大動脈瘤の評価などが行えます。

左心カテーテル検査に対して、右心カテーテル検査があります。一般には、スワンガンツカテーテルのことを指します。肺動脈圧など右心系の圧測定と、心拍出量の測定 (一時的あるいは持続的) が出来ます。

上記以外に、循環器内科医がいわゆるカテ室を利用するのに、心臓電気生理学的検査 (EPS) とカテーテルアブレーション (心筋焼灼術) があります。洞不全、房室ブロックの診断、上室性頻拍、心室頻拍、心房粗動などに対するカテーテルアブレーションなどに利用します。当院では、64 チャンネルのポリグラフ (心内心電図記録など) を装備しています。

その他、一時ペーシングの挿入、下大静脈フィルター留置、下肢動脈造影とカテーテル治療、内シャント不全の診断と血管拡張術などにも利用されます。カテ室は、循環器内科医にとって、外科における手術室のような存在です。



24時間稼働します!

米子医療センター活動報告

米子医療センターでは、患者様へよりよい医療提供ができるよう各種講演や研修会などを主催したり、外部講演、研修会などにも積極的に参加しております。また、地域の皆様とのふれあいの場を大切にしています。



外部研修

多くの学びを得た

緩和ケア認定看護師 山崎 美沙



今年度緩和ケア病棟立ち上げに向けて、ソフト面・ハード面で必要なことを学ぶために、平成26年3月10日より4日間松江市立病院緩和ケア病棟に実習に行かせて頂きました。緩和ケア病棟研修を4日間終了し、病棟スタッフだけでなく、患者さん・ご家族からも多くの学びを得ることができました。

1. 松江市立病院緩和ケア病棟の実際

研修先では、看護師が患者さん・ご家族のそばに寄り添える時間を増やすために一部機能別看護を取り入れるなどの業務調整（ケア・点滴担当の看護師に分かれていることや看護助手もナースコール対応を行うこと）を行っていました。しかし患者さんから「この病棟は一般病棟に比べて断然いいが、それでも機械的なこともあって、まだまだなんだよ」という言葉も聞かれています。その言葉が印象的で、業務

を遂行することが優先しないように配慮していく必要性を感じています。

研修中に死後のお見送りがありました。湯灌・メイクをして帰られる姿はとてきれいで顔に布をかける必要もないほどです。ラウンジに病棟スタッフ全員が集合、生前の思い出の曲を音楽療法士が演奏、花を1輪手向けにお見送りを行っていました。そうすることで自然に家族とのコミュニケーションが図れ、「最期にゆっくり一緒にいられて良かった。我慢強い人で、良く頑張ってた」等故人を思い返すきっかけにもなり、医療者もそれに対して言葉を返すことができ、遺族ケアにつながっていると感じました。

症例カンファレンスやチームカンファレンス、デスクカンファレンスなどのカンファレンスには病棟スタッフ以外にも薬剤師、理学療法士、MSW、栄養士、音楽療法士等の他職種が参加することで、患者さん・ご家族の苦痛にタイムリーに対処することに繋がっていました。また元の主治医が参加すると、情報交換がスムーズに行えるだけでなく、緩和ケア医の意見を直接伝えることもできて、患者ケアに迅速につながっていくことが出来ていました。

2. 研修の学び

今後緩和ケア病棟で働くにあたり、患者さん・ご家族に寄り添えるケアやおもてなしの心を持って関わりたいと強く思いま

した。スタッフが同じ思いでケアに当たれるようにスタッフ全員で話し合いながら病棟運営にあたること、スタッフ教育に取り組んでいく必要があります。そのためにも、一つ一つの症例について症状コントロールだけでなく、患者・家族の希望を叶えられる様なケアの実現を目指したカンファレンスを、チームスタッフ全員で充分行っていく必要があると思いました。

3. 今後の取り組み

緩和ケア病棟立ち上げに向けては「病棟理念」を決める他、各病棟設備のマニュアルについても決めていかなければならず、マニュアルについては当院で行えることを考えなければならないということを教えられました。現在緩和ケアマニュアルの作成や病棟管理規定の作成、ボランティア活動の調整や各種イベントの企画などにも取り組んでいます。病棟理念については緩和ケア担当医である松永先生を中心に、緩和ケア病棟に関わるコアメンバー全員が同じ思いで作りに上げられるようにしていきたいと思います。また、当院の緩和ケア病棟は、始めから全て完璧にすることは難しいかもしれませんが、一つずつ積み重ね、実施しながらスタッフ全員で患者さん・御家族のための病棟にしていきたいと思

合同カンファレンス開催



平成26年度 第1回
感染防止対策加算に係る
合同カンファレンス

チーム活動の強化につなげたい

感染管理認定看護師 中田 早苗

感染防止対策加算Iを取得して2年が経過しました。現在、鳥取県西部地域で加算Iを取得している医療機関は鳥取大学医学部附属病院と山陰労災病院、当院の3施設、加算2取得医療機関は博愛病院、西伯病院など6施設です。今回、5月17日（土）西部総合事務所福祉保健局の会議室にて、加算Iと加算IIの9施設のICTメンバー41名が一堂に会し、感染対策について合同カンファレンスを行いました。

今回のカンファレンスの内容は、MRSA新規検出状況や手指消毒薬使用量の推移、広域スペクトラム抗菌薬の使用状況、血液培養2セット率、ICTラウンド回数、加算取得後のICT活動の変化など、加算取得前と取得後の院内データを発表しあうというものでした。

9施設のデータ集計と分析は鳥取大学医学部附属病院の方に担当して頂き、大変お世話になりました。施設規模や診療科、患者背景が異なる施設同士ですのでデータの比較はなかなか難しいですが、多くの施設が加算取得を機にチーム活動が活発になったことは明らかでした。一番印象的だったのが、連携施設同士での情報交換が密になり、施設間のつながりが深まったということだと思います。意見交換では、細菌検査法やTDM、手指衛生強化への取り組み、アウトブレイク対応のポイントなど参考になることが多くありました。

当院の状況としては、MRSA検出率の増加や特定抗菌薬の使用が依然多いという問題を再確認し、院内での特定抗菌薬届出制と監視体制の強化について考えさせられました。まだまだ他にもたくさん抱えている問題を抱えていますが、このような地域のつながりを大切にしながら、チーム活動を強化していこうと思います。

看護の日フェア



看護の日記念行事
看護の日フェア2014

旧病院での最後のフェア

外来看護師長 布施 道代

5月17日土曜日、米子医療センター院内で開催しました。当日は快晴の暖かい日で、100名あまりの方にきていただきました。

健康・栄養・薬剤・介護についての相談を、医師・栄養士・薬剤師・MSWが行いました。また、転倒予防、肩こり解消の体操を理学療法士からレクチャーしてもらいました。また、身長・体重・体脂肪・血管年齢・骨密度の測定を行いました。特に血管年齢や骨密度測定は、関心度が高く、好評でした。移植コーディネーターの方にも来て頂き、来場された方に移植医療について啓発活動を行っていただきました。

今年はボランティアの方に、アロママッサージを行っていただきました。これがことのほか好評で、とても気持ちが良くて最高だったと、施術を受けられた感想をいただいた方がおられました。時間の都合で受けられなかった方が、とても残念がっておられました。

当院のスタッフが演奏するミニコンサートやめだかすくいも行いました。ミニコンサートには、入院中の方にも参加していただきました。即席のコーラス隊も合唱で盛り上げました。めだかすくいには、面会にこられた方が参加してくださったり、これを目当てにめだかを入れる容器を持参してこられた方もおられました。

古い病院で最後のフェアでした。新病院になって尚いっそう、地域の皆様がいキイキと健康な生活を送っていただける支援ができればと思っています。

春の 消防避難訓練!

5月29日好天の下、消防避難訓練を実施しました。

また、訓練終了後は新人職員を対象に消化器の取り扱いについて米子消防署の方々にご指導頂きました。



なめらか食 ってなあに？



◇食事と「歯」

H22年6月9日に入院患者様の咀嚼に関する調査を実施したところ、60歳以上の患者様の約半数が歯の欠損ありという結果でした。また欠損部位は奥歯が多く、よく噛んで食べられない方が多いことがわかりました。

私たちが食べ物を「ごっくん」と飲み込む前に、口の中では食べ物を奥歯でペースト状にすりつぶし、唾液と混ぜて適切な形状にしています。また口の中のもの飲み込む時は、食事の塊が気管に入らないように奥歯を噛みしめて口の中を陰圧にして飲み込んでいきます。奥歯がない、義歯もない状態では、やわらかいものしか食べられず、ごはんやいも類に偏り、栄養失調の原因になったり、口の中が陰圧にできないため食べ物が気管に入り肺炎になることもあります。

◇ペースト食やゼリー食

奥歯のない方、義歯の合わない方の増加に伴い、軟らかく煮た食材を刻んだり、刻んだ食事を口の中でまとめやすくするためにトロミ剤を使用したり、ペースト食(写真1)やゼリー食(写真2)で対応しています。



ペースト食とは調理した食事をミキサーでペースト状にしたものです。ゼリー食とは、食材をゼラチンを使ってゼリー状にしたもの

や、ペースト食をゲル化剤などでゼリー状にかためたものをいいます。しかし患者様から、ペースト食やゼリー食は何の料理かわからない、日によって仕上がりが異なる、また、形があり舌で潰せる軟らかいものが食べたいという要望も受け、食事の再検討が必要となりました。



◇安定した品質で提供できるように

最初に、提供する料理の品質の安定に取り組みました。水分が多い食材ほどミキサーにかけやすいですが、水分が多いとゲル化剤をたくさん使うためかえって飲みこみにくいものになります。そのため、お粥のように粘度の高い食材や、加える水分が少なくても調理可能なミキサーを検討しました。さらに、誰が作っても同じ仕上がりになるように、材料、だし汁、液体を固形化するゲル化剤の割合を実験にて決定し、安定した品質で提供できるように努めています。

次に、見た目がよく、口の中でまとめやすく、飲み込みやすい料理を提供するため、市販の嚥下食に注目しました。しかし、会社によってはゲル化剤の使用量が多く食べにくいものもあります。また、硬さの調整が難しく、いつも同じ見た目、味で提供することになるというデメリットが生じます。悩んでいる際に「なめらか食」という食事を知る機会を得ました。



栄養管理室 管理栄養士
来見 彩花

◇「なめらか食」の調理法

なめらか食の調理方法は、調理した食材をミキサーにかけてだし汁と分量のゲル化剤を入れ、加熱後成形し、冷却をします。(作業写真①～④) 冷却して固まった食材をカットし、皿に盛り付けます。(作業写真⑤～⑥) 材料、だし汁、ゲル化剤の配合の実験と試食テストを繰り返しました。

しかし、魚の煮つけを作るのにも、下処理から加熱終了まで、約60分の作業時間を要します。その後食材をペースト状に加工し、ゲル化剤を加え、再加熱、成形、冷却、の作業も約60分の時間を要します。すると、加熱後2時間以内に毎食提供するのは困難です。当院で昨年開始したクックチルという調理方法では、加熱調理した食品を急速冷却して保存し、当日に再加熱をして提供します。予め調理した料理を当日に



なめらか食として加工する時間的余裕が生まれ、手作りのなめらか食の提供が昼食、夕食で可能となりました。

◇形があり、何の料理か分かりやすいこと

現在では、魚は魚らしく、切り身にして、皮もミキサーにかけて成形したり、バーナーで焦げ目をつけたりと、日々改良を進めています。また食品ごとに硬さの測定をし、数値化することで仕上がりの統一を進めています。奥歯がないと誤嚥する等の危険があるため、義歯の装着が必須ですが、義歯を作ったり調整するには時間がかかります。それまでの間に、形があり何の料理か分かりやすい「なめらか食」を手作りで、朝食にも提供するため、今後一層努力します。

作業写真



①材料を温める



②①をミキサーに入れ、食材にだし汁を加えてミキサーにかける



③②を鍋に移し、ゲル化剤を加えて加熱する



④成形し冷却する



⑤魚は切り身にする



⑥皮も同様に成形し、あんをかけて完成

70℃以上加熱しないと成形できない

•かわいいの煮付け



整形外科医長
大槻 亮二

やさしくいねいに

平成 26 年 4 月に米子医療センターに赴任いたしました、整形外科の大槻亮二（おおつき りょうじ）と申します。平成元年に鳥取大学を卒業し、整形外科に入局しました。以後関連病院で研修を受け平成 11 年から平成 26 年 3 月までは、鳥取大学医学部附属病院に勤務しておりました。着任当初は 10 年ぶりの紙カルテと紙伝票、そして大学の 3 倍くらいの速さで流れる手術スケジュールに困惑しましたが、それらにもようやく慣れてきた今日この頃です。

大学では主に中高齢者の膝関節疾患の手術を担当しておりました。この疾患群の多くは、保存的治療である程度の症状のコントロールが可能ですが、症状が強い場合や保存的治療の効果が乏しくなった場合には手術が有効です。膝関節鏡視下手術、骨切り術、人工膝関節置換術などの手術があり、疾患の重症度や患者さんの年齢・活動性に依りて術式を選択して行います。最近術式の進歩により、ほとんどの症例で術後 4 週間後での退院が可能となっています。手術を希望される患者さんがいらっしゃいましたら、ご相談いただけますと幸いです。

当院は大学病院に比べますと小規模ですがその分小回りが利き、手術部や麻酔科・放射線科との連携も密でスムーズです。建物が古いとか暗いとかのお声もごさいますが、7 月には新病院が完成しますので、診療環境・療養環境とも格段に改善するものと楽しみにしております。

いわゆる「アラフィフ」の歳になり、気合いと体力で忙しさを乗り切ることが難しくなってきましたが、恩師である豊島良太前教授の口癖の「患者さんにはやさしくいねいに」を心がけて頑張ります。よろしく願いいたします。



内科医長
酒井 浩光

皆様のお役にたてるように

平成 26 年 4 月より着任いたしました酒井浩光（さかい ひろみつ）と申します。

出身は安来ですが、小学生のころ皆生に 2 年間住んだことがあります。

平成 10 年 3 月に自治医科大学医学部を卒業し、医師になってからは鳥根県内の医療機関に勤務しておりました。鳥根県立中央病院で初期研修を行った後、隠岐広域連立立隠岐病院内科、飯南町立飯南病院内科に勤務しました。その際は内科全般の診療を行っていました。

平成 18 年より前任地の浜田医療センターで呼吸器内科に 8 年間勤務し、呼吸器全般にわたって診療しておりました。鳥根県西部地域は高齢化が進んでおり、高齢者の誤嚥性肺炎や肺癌の患者さんを多く診てきました。

当院では、肺癌、肺炎、COPD など呼吸器疾患全般を担当させていただきます。また、総合内科専門医も取得しておりますので一般内科的な疾患につきましても対応させていただきます。

皆様のお役にたてるよう頑張りますので、何卒よろしく願いいたします。



泌尿器科医師
小林 直人

地域の病院として

本年 4 月より赴任いたしました小林直人（こばやし なおと）と申します。

平成 11 年に鳥取大学医学部を卒業し、大学病院を中心におもに山陰の病院で研修させていただきました。大学では排尿障害

などを専門領域としておりましたが、当院では癌、尿路感染症・結石をはじめ、透析・腎移植など幅広く行っており大変やりがいを感じています。

高い医療水準の維持を求め、症例に応じては大学病院と密に連携をとって、患者様に対し治療利益を損なうことのないよう心がけております。地域の病院として、一般的なことから専門性の高い分野までカバーできるよう努力していきたいと思っておりますので、なにかございましたらご相談いただければありがたく存じます。

今後とも何卒よろしく願い申し上げます。



胸部・血管外科医師
若原 誠

宜しくお願いいたします

平成 26 年 4 月より赴任しました、若原誠（わかほら まこと）と申します。

出身は鳥取県米子市です。平成 20 年に鳥取大学医学部を卒業し、鳥取大学医学部附属病院で 2 年間の初期研修を行いました。その後、呉医療センターに外科後期研修医として 2 年半、鳥取大学医学部附属病院 胸部外科に 1 年半の勤務を経て、この度、米子医療センター 胸部・血管外科に赴任しました。

当科では、呼吸器外科、乳腺外科、内分泌外科、血管外科領域の手術を行っています。肺癌、乳癌、甲状腺癌等の悪性疾患のみでなく、気胸、バセドウ病、副甲状腺機能亢進症、下肢静脈瘤、閉塞性動脈硬化症等の良性疾患まで、幅広い分野を取り扱っております。また、癌診療におきましては、術前・術後を中心とした化学療法も行っています。放射線治療が可能であり、乳癌術後のリンパマッサージ等の理学療法にも力を入れています。また、平成 26 年 7 月末に新病院へ移転となった後には、緩和ケア病棟も設立されます。集学的な治療ができるのが当院の強みの 1 つであり、その治療の一端を担えるよう、精進していきたいと思っております。

たいと思っております。

まだ外科医としては成長中の身ではありますが、何とぞ宜しくお願いいたします。



消化器内科医師
上田 直樹

はじめまして

2014 年 4 月から着任しました消化器内科の上田直樹（うへだ なおき）と申します。

鳥取県は西伯郡大山町の生まれで、鳥取大学第 2 内科入局し松江市立病院消化器内科に先日まで勤めておりました。趣味は旅行、ゴルフ、ビリヤードなどです。

消化器疾患は多くの疾患があり、日々勉強に精進しております。

当院では消化器診療のみならず総合診療として幅広く診療を行っていかれたらと思います。皆様のお役に少しでも立てたらと思います。

まだまだ若輩者ですが、よろしく願い申し上げます。



消化器内科医師
藤井 政至

皆様のお役にたてるように

本年度 4 月より米子医療センターへ着任致しました、消化器内科の藤井政至（ふじい まさし）と申します。私の生まれは鳥取市で、その後米子市と倉吉市で育ちました。大学を卒業してからは鳥取大学医学部附属病院と鳥取県立厚生病院で初期臨床研修を行った後、鳥取大学第二内科へ入局し、消化器内科医として診療に従事しております。

消化器癌をはじめとして内科系の幅広い疾患に対応していきたいと考えております。

皆様のお役に立てるよう日々精進して参りますので今後とも宜しくお願い申し上げます。



麻酔科医師
藤井 勇雄

初めまして

平成 26 年 5 月より米子医療センターへ着任致しました、麻酔科の藤井勇雄（ふじい いさお）と申します。生まれも育ちも米子市上福原の地元っ子です。平成 24 年に鳥取大学医学部を卒業してからは鳥取大学医学部附属病院で初期臨床研修を行った後、鳥取大学麻酔科へ入局し、麻酔科医として主に手術麻酔を行っていました。

産休中の徳永先生の代役として新しい環境で戸惑いつつも、他の諸先生方や看護師の方々など多くの人に支えられながら日々精進させていただいております。7 月の下旬には新病院への移転があり、これまで以上の手術件数が予想されます。麻酔科医として地域の医療に貢献できることを誇りに思い、これまで以上に皆様のお役に立てるよう粉骨砕身して参りますので今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

がんフォーラム

米子医療センター

■テーマ

もっと知ってほしい! がん患者を支えるチームの力 —認定看護師の活動を中心に—

市民公開講座 **参加無料**

日時:平成26年 **8/30土** 午後1時~4時

会場:米子コンベンションセンター
ビッグシップ 小ホール

I 講演 午後1時~3時

- 1) がんに関連する認定看護師の役割と活動について (米子医療センター) 看護部長
- 2) もっと知ってください—認定看護師の活動を (米子医療センター) 緩和ケア認定看護師
がん性疼痛認定看護師・がん化学療法認定看護師
放射線治療認定看護師・乳がん看護認定看護師
- 3) がんのリハビリについて (米子医療センター) 理学療法士長
- 4) がん患者の就労支援について 社会保険労務士

II 相談コーナー 午後3時~4時

各認定看護師、リハビリ担当者、
社会保険労務士がご相談に対応します。
▶お問い合わせ先: がん相談支援センター
TEL.0859-37-3930

- 主催: (独)国立病院機構 米子医療センター
- 後援: 鳥取県・米子市・鳥取県医師会
鳥取県看護協会・鳥取県西部医師会

緩和ケア内科外来開設のお知らせ

7月3日より
緩和ケア内科外来を
開設します

完全予約制

担当緩和ケア内科医 / 松永 佳子
毎週(月・木) 午後2時より4時まで

「紹介患者事前受付用FAX用紙」に受診希望日を記入の上、「紹介状」とともにご申し込みください。

放射線予約受け付け方法が変わります

7月28日より

従来はお電話での予約受付でしたが電子カルテ導入に伴い、地域医療連携室への「紹介患者事前受付用FAX用紙」での事前FAX予約へ変更となります。

問い合わせ先

地域医療連携室 TEL.0859-37-3930 / FAX.0859-37-3931

Enjoy!
学生LIFE

入学式を終えて



附属看護学校1年生
松本 颯希

暖かな春の日差しに包まれた4月8日、私たち48回生40名は入学をいたしました。入学式では、学校長先生をはじめ諸先生や先輩から温かい言葉を頂き、看護の道を志す気持ちを新たにするとともに、嬉しい気持ちで一杯になりました。入学式を終えるとオリエンテーションがあり、二週目からは講義が始まりました。まだ慣れないことばかりで緊張や不安がありました。徐々にクラス全体の雰囲気や和やかになりつつあります。

皆が看護師を目指して入学をしたのですが、私が看護師を目指そうとしたきっかけは、看護師をしていた祖母から病気の話や看護師の仕事の話の話を聞き、看護師の仕事に興味を持つようになったことでした。そして高校生の時、本学のオープンスクールに参加した際、初めて看護の技術を体験し、看護の道を進む先輩方の姿を間近に見ることができたことが、看護師を目指す決め手となりました。その後、病院での看護体験で、看護

師は人の命を預かるという責任の重い職業であることに気づかされ、やりがいのある職業であると思い、やはり看護の道を志そうと決めました。

私たちはこれからの三年間で看護師として必要なことを学んでいきます。その途中では様々な困難に直面することもあるでしょう。しかしそこで挫けることなく、共に看護師を目指す仲間と高めあい支え合いながら、一步一步着実に目標に近づいていきたいと思います。そして、先輩方のうしろ姿を見つめ、先生のご指導を頂きながら、自分の精神面も鍛えていきます。そして、どのような場面でも患者様と家族の傍に寄り添い、思いやりのある看護ができる看護師とされるように日々努力していきたいと思っています。



新入生歓迎会



附属看護学校2年生
堀田 絢香

私達の看護学校では、学生自治会があり年間を通して様々な活動をしています。年度の一歩はじめにやってくる学校行事が、2年生がリーダーとなって企画運営する「新入生歓迎会」です。

今年度は病院の移転に伴って実習時期が変更された関係で、恒例となっていた球技大会を開催することができませんでした。そのため今回は新しい試みとして、校内での「ドッジボール」や「なんでもバスケット」「ビンゴゲーム大会」などを企画しました。企画を立ち上げていく中で、どうしたら学生同士が自然に楽しく交流することができるのかをみんなで考え、「なんでもバスケット」では独自のルールを作り、真ん中に立った人に自己紹介をもらい、周りの人はそれに拍手で答えるようにしました。そうすることで、学年を超えて初対面の人と触れ合うことができ、笑いが起こる場面もたくさんありました。食事会では先生も交えて、先輩から実習の話や聞くなど笑顔で交流する姿がみられました。1年生からは「すごく楽しかった」と好評で企画した私たちもほっとして嬉しく思いました。

これを機に、学校全体のつながりをさらに深めて、よりよい学校生活を送ることができたらいいなと思います。

